

令和6年度 府立宮津天橋高等学校加悦谷学舎 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
【スクール・ミッション】 文武両道を重んじる普通科を設置する学舎制高校として、スポーツ活動を充実させることにより、課題発見能力と確かな学力を身に付け、仲間と共に支え合い未来を切り拓く力を備えた人材を育成する。 【教育理念】 真理と正義を希求し、豊かな人間性を備え、幸せな人生と社会を創造する人間を育成する。 【スクール・ポリシー（三つの方針）】 1 育成を目指す資質能力に関する方針 ～社会的使命感和青雲の志～ - 幅広く深い知識と教養を身に付け、豊かな情操と道徳心を培う。 - 自主自律の精神を養うとともに、主体的に社会の形成に参画し、その発展に貢献する。 - 伝統と文化を尊重し、郷土を愛し、地域社会を守り受け継ぐとともに、国際社会の平和と発展に寄与する。 2 教育課程の編成及び実施に関する方針 ～平日6時間授業（週30時間）＋放課後活用＝一人一人の可能性を伸ばす～ - 確かな基礎学力に基づいた課題発見・解決力を身に付け、主体的に未来を切り拓くことのできる能力を養う。 - 他者との対話や議論を通じて、互いに多様性を認め合い、協働していくことができる態度を養う。 - 学校と地域社会との「学社協働」を通して、持続可能な地域社会の在り方を探究することで、自身と社会のwell-being（幸福）につなげる姿勢を育てる。 - 特にアスリートスポーツコースでは、専門競技を探究するとともに、マリンスポーツ体験及び小・中学校や支援学校との交流を通して、周囲への感謝を忘れず謙虚さを併せ持つ態度を養う。 3 入学者の受入れに関する方針 ～学習×部活動×地域社会＝幸せ織りなす人生～ - 授業、探究活動や部活動等を通して、仲間と協働しながら充実した高校生活を送り、豊かな人間性・社会性を身に付けた生徒 - 知的好奇心を持って地域社会で学び得た知識や技能を、将来にわたって社会の持続発展や自らの幸せにつなげようとする生徒 - 仲間と協力しながら自らの専門競技や文化部活動等に打ち込むとともに、謙虚な心や豊かな感性を身に付け、チームに貢献し続ける生徒	【成果】 ◇学舎間バスを活用し、成果を上げている部活動に加えて、学年行事や探究活動、天橋芸術祭等の新規の学舎間交流の取組が実施できた。 ◇高校魅力化コーディネーターの活動により与謝野町や地元商工会との連携、地域人材の活用がさらに進み、総合的な探究の時間やKayadani仕事図鑑を始めとするキャリア教育、各教科での外部講師による特色ある授業等教育活動の充実を図ることができた。 ◇学校評価アンケートで学習指導で86%、進路指導で90%の生徒が肯定的評価をしている。 ◇早期からの就職ガイダンスや生徒個人ごとの進路検討会を学年部と進路指導部が連携して実施し、国公立大学4名の合格を始め、就職・進学ともに生徒の希望進路の実現に繋がった。また、新規に2年生就職希望者対象の本格的なインターンシップを実施できた。 ◇ウエイトリフティング部個人の世界選手権出場、硬式野球部の京都府大会ベスト8を始め、体育系・文化系ともに全国大会、近畿大会出場等の実績を上げており、学舎制による合同部活動の成果が見られた。 【課題】 ◆スクール・ミッション、スクール・ポリシーを教職員、生徒、保護者、中学生及び地域社会に対して周知を図るとともに、その実現に向けた教育実践を推進する。 ◆中学校教員対象説明会の新規実施や個別相談会の拡充など広報活動の充実と部活動の積極的勧誘により前期選抜B方式では募集定員を超える志願者を確保できたが、全体では入学定員を満たすことができなかった。 ◆学舎制高校のスケールメリットを活かすため、宮津学舎と一層緊密な連携を図り、遠隔教育システムによる授業や探究活動、学校行事、部活動等により両学舎の生徒・教員の相互交流・連携を推進する。 ◆教育相談や外部機関等との連携を進め、多様な課題を持った生徒への対応をきめ細かに行う。	1 学力向上 一人一人にきめ細かな指導を展開し、基礎学力及び発展的な学力を身に付けさせ、探究的な学習をとおして、他者と協働しながら、主体的に学ぶ姿勢を育成するとともに、自らの希望進路を切り拓くために必要な学力を養成する。 2 スポーツ・文化活動の充実 平日6時間授業のメリハリのある教育を展開し、学習との両立を図りながら、放課後時間を有効に活用させ、アスリートスポーツコースを核とするスポーツ活動や運動部・文化部の部活動の一層の充実を図る。 3 地域貢献・ボランティア活動 地域探究・地域貢献活動やボランティア活動を積極的に行うとともに、スポーツ交流など小・中学校、地域社会と連携した取組を推進することで、生徒の自己有用感を高めるとともに、地域社会に貢献し信頼される学校を目指す。 4 魅力的な教育内容の実践 学舎制の特色を活かした遠隔教育システムによる授業や学校行事・部活動での連携とともに、アスリートスポーツコースの一層の活性化により、入学した生徒が広い視野を持ちながら大きく成長でき、学校と地域社会がともに発展する魅力的な教育活動を行う。 5 広報の充実・入学希望者の増加 本学舎の特色ある取組や魅力をホームページ、ニュースレター、学校公開など、あらゆる機会を活用して発信し、入学希望者の増加につなげる。 6 教職員の資質能力の向上 「京都府教員等の資質能力の向上に関する指標」を踏まえ、ステージに応じた資質能力の向上を図る。また、学校DXの推進やICT活用、観点別評価の研修を深め、授業改善を推進する。

評価領域	項目（重点目標）	具 体 的 方 策	評 価			成 果 と 課 題
組織・運営	○学校の特色化と積極的な情報発信により入学希望者の増加に繋げる。 ○学舎間連携を積極的に実施するとともに学校体制の充実を図る。	○本学舎の魅力を積極的に広報し、中学校教員向け説明会の実施やアスリートスポーツコースの活性化、部活動勧誘を通して志願者確保を進める。	B	B	B	○中学校教員対象の説明会は昨年よりも多くの参加があった。様々なチャネルをとってはたらきかけて、地域から選ばれる学校づくりを継続する。 ○芸術鑑賞等において学舎間合同の学校行事が開催できた。学舎間バスを有効利用する部活動生徒は過去最高人数となり成果が上がった。
		○学校行事や部活動、遠隔授業、探究活動等の合同での学習を積極的に行い、両学舎の生徒・教員の交流を推進し、相互理解と多様性を認め合える豊かで寛容な心を養う。	B	B		
学習指導 ・ 進路指導	○一人一人に寄り添うきめ細かな指導により学力の向上を図る。 ○地域での探究活動等を通して、希望進路の実現に必要な確かな学力を養成する。	○タブレット端末の活用や観点別評価の実施、探究活動の推進により、将来を予測することが難しいこれからの時代で生き抜く力を身に付ける。	A	A	A	○Forms等の各種ICTツールを活用した学習活動を実施できている。 ○月・木の放課後活用が定着し、基礎学力の定着から進路希望に応じた指導まで進路実現に向けた取り組みとなっている。 ○担任だけでなく学年部長も生徒全員に面談を実施し進路に対する意識の確認と助言を行い、分掌とも連携しながらより細やかに希望進路実現に向けて支援を行うことができた。
		○放課後活用を利用し基礎学力の充実を図りながら、探究活動や各種ガイダンスで進路に対する理解を深める。 ○面談をはじめとする一人一人に寄り添った指導を行い、希望進路実現に向けて組織的に支援を行う。	A	A		
生徒指導 ・ 特別活動	○規範意識の一層の向上を図るとともに、諸活動の充実により主体的・協同的に活動する生徒を育成する。	○遅刻の防止、制服の着こなし、頭髮や身だしなみをはじめマナーを守る重要性和集団の一員であることを理解させ、発達支援的生徒指導（未然防止）に務める。	B	B	B	○時間やルールを守ることにについて日々の声かけを強化した。予鈴遅刻者数や制服の着こなし、身だしなみは例年並みに落ち着いていた。また二次的指導でなく発達支援的な生徒指導の実践に務めた。 ○部活動入部率とボランティア参加延べ人数が昨年より増加したのは良いことである。支援学校との交流会は久々のリアル開催が実現し大変意義あるものとなった。
		○日々の部活動や定期ボランティア、また、学校祭や支援学校との交流会等への積極的参加を促すことで、自他を大切にする気持ちや、仲間と協力しながら自己の役割を果たすことのできる生徒を育む。	B	B		
健康安全 ・ 教育相談	○生命と人権を尊重する態度を育て、健やかな心身の育成を図る。 ○校内美化、感染防止を進め、安心・安全な教育活動を行う。	○性教育や人権教育を充実させ、互いの多様性を認め合う。教育相談会議など、相談体制の充実を図り、要支援生徒の早期把握と適切な対応を各専門機関と連携しながら進める。	B	B	B	○性教育や人権教育を充実させる健康教育を実施することができた。 ○教育相談会議において要支援生徒の情報共有を行い、各分掌や学年と連携をとりながら支援を進め、必要に応じ関係機関との連携を進めることができた。 ○学校医と連携し感染症予防の対策に取り組み、感染拡大を防ぐことができた。
		○校内美化、学習環境の安全・衛生的管理を行い、安全に教育活動を進められるようにする。また、感染症の流行期においては予防と発生時の対応を迅速に進める。	B	B		
家庭・地域・ 社会連携	○家庭・地域社会との連携をより強固なものとし、教育活動の充実を図るとともに学校の特色化を推進する。	○与謝野町高校魅力化コーディネーターとの強力な連携により、生徒が地域社会と積極的に繋がり、探究活動や地域貢献の取組を推進する。	A	A	A	○高校魅力化コーディネーターの常駐をとおして、外部人材との連携や地域でのフィールドワーク推進により、探究活動の深化に繋がった。 ○文化祭模擬店、各種行事・調査等の連絡でスクリレの活用により、学校と家庭の連携を推進することができた。
		○PTA活動の充実を図り、保護者面談や各種説明会等での情報提供を通じて、家庭・地域社会との連携を充実する。	A	A		

学校関係者 評価委員会 による評価	○卒業式での呼名の返事や退場するときの表情に、高校３年間のすべてが表れており、教育の成果を感じた。 ○学舎間の人数が異なるため、生徒及び職員の学舎間移動の均等を図るのは難しいが、学舎間交流がより進んでいると感じる。 ○総合的な探究の時間の発表会は素晴らしいものであり、それ故に保護者等の方が参観できる方法を考えるべきである。 ○他者や自身の身を守る観点から、自転車マナー等の徹底と、安全のためにヘルメットの着用を強く啓発するべきである。 ○アンケート結果から施設・設備に対する不満が多いが、すべてのトイレの洋式化は不可欠である。 ○地域連携や地域貢献において、取組が充実してきている。今後は、枠にとらわれず生徒が知らない分野を体験させるのも良い。 ○多様な生徒がいるため、多様な教員が必要であり、多様性による有機的な関わり合いから生徒をさらに尖らせるような良い学校づくりを期待している。
次年度への 改善の方向性	○一体感のある学校を構築するため、部活動以外での両学舎の交流が促進される機会を充実させるとともに、教職員のさらなる意識向上を図る。 ○総合的な探究の時間の発表会などを多くの方が参観できる方法を検討する。 ○自転車マナーの向上など交通安全教育を進める。 ○これまでの取組の枠にとられない地域連携や地域貢献を進める。 ○DX ハイスクール事業で整備された施設設備を活用した取組を加速させる。 ○個人情報の保護の観点をしっかりと意識しながら、広報を充実させる。 ○規範意識が不十分な行動等について、全教職員でしっかりと対応する。 ○SC や SSW 等とも効果的な連携を進めながら、校内における支援会議をしっかりと機能させる。 ○探究活動等をキャリア形成につなげる支援を充実させる。 ○「仲間と共に支え合い未来を切り拓く力を備えた人材の育成」のため、多様な生徒の関わり合いを意識した取組を拡充する。